

ウェストンバート国立森林公園へようこそ

美しく珍しい樹木や灌木で知られるウェストンバート森林公園。温帯気候の樹木園としては、世界でも指折りの規模を誇ります。これらの樹木の多くは、ヴィクトリア朝の最盛期であった19世紀半ばに、富裕な地主ロバート・ホルフォードによって収集されました。また、樹木はもちろんのこと「ピクチャレスク様式」の景観も素晴らしく、この2つの要素が、ウェストンバート森林公園の独特な雰囲気を作り上げています。

ここを訪れる人はみな、ホルフォードの素晴らしい遺産を共有することができるのです。英国の他の土地であまり目にすることのない古い歴史を持った珍しい樹木が、穏やかで心地よい一日をお約束します。600エーカーという広大な敷地には、3000種に及ぶ1万6000本余りの樹木や灌木が植えられています。英国政府はウェストンバート森林公園の重要性を認識し、2001年に国立森林公園と指定しました。また、イングリッシュ・ヘリテージの歴史的公園・庭園簿には、「世界的に重要な景観—グレード1」として登録されています。

ウェストンバートは、英国政府の機関として公有林の保護をその主な業務とする森林保護委員会の運営管理下にあります。同委員会の目的はウェストンバート森林公園を維持するだけでなく、多くの方々にその良さを知っていただくことにあります。

ウェストンバート森林公園の楽しみ方

ウェストンバート森林公園は、オールド・アーバリータム Old Arboretum とシルク・ウッド Silk Wood という、それぞれにユニークな2つの庭園で構成されています。

1850年に作られたオールド・アーバリータムは、素晴らしい眺めと壮大な並木道の特徴とし、歩きながら珍しい外来樹を鑑賞することができます。一方、シルク・ウッドはフォーマルなオールド・アーバリータムとは対照的に、静かな小道がうねうねと続く森林庭園で、その歴史は13世紀にまでさかのぼります。どちらにも舗道があり、車椅子の方にもご利用いただけます。もちろん樹木の間を自

由きままに散歩なさるのも楽しいでしょう。シルク・ウッドでは、しつけの行き届いた犬を同伴することができますが、オールド・アーバリータムでは犬の同伴はご遠慮ください。

当園が発行しているガイドブック **Seasonal Guide** には、季節の見どころや園内の地図、および各種施設についての情報が掲載されています。同ガイドブックは、グレート・オーク・ホール **Great Oak Hall** にてお求めになれます。

駐車場の近くには、ショップ、レストラン、トイレなどの施設が整っております。また、中心的建物であるグレート・オーク・ホールにはインフォメーション・デスクがあり、フレンドリーで知識豊富なボランティアが、毎日午前 10 時から午後 4 時までお客様のご質問にお答えしています。車椅子の貸し出し、救急医療、迷子相談に関しましては、ホールより至近の **Visitor Services Building** までお越しください。（電話：+44 (0)1666-881-218）

また、グレート・オーク・ホールでは、5 歳以下の幼児のための「**Exploratree**」プレイ・エリアおよび学童向けのスペシャル・トレールも用意しております。

樹木が見せてくれる四季おりおりの美しさ

ウェストンバートの樹木、灌木、野生の花は、その見事な色彩と形とパターンで、四季を通じて人々の目を楽しませてくれています。いつ訪れても変わらないこと—それは静寂さです。入園者数が最も多い 10 月でさえ、シルク・ウッドの中にいったん足を踏み入れると、街の喧騒から解き放たれ、清々しい気持ちになってくることでしょう。

春—色彩の競演



3 月から 5 月にかけて、オールド・アーバリータムには石楠花、つつじ、もくれんなどが、シルク・ウッドにはヒメリュウキンカ、ウッドアネモネなどの野生の花が、競うように咲き誇ります。特に、4 月末から 5 月初めには、ブルーベルがカーペットのように地面を埋めつくします。

冬の間の静かな眠りから目覚めた植物たちは、その緑色の手足を生き生きと伸ばして大きく息を吸い込みます。シルク・ウッドのメイプル・ループ **Maple Loop** にぜひ足をお運びください。もみじの鮮やかさが目に飛び込んでくるでしょう。また、ウェストンバート森林公園で一番古い樹齢 **2000** 年の菩提樹もあなたをお待ちしています。

夏のオアシスでリラックス

6月から8月の間、太陽の光をいっぱいを受けて、あらゆる種類の樹木の全ての葉が伸び伸びと成長します。チラチラしたまだらの光線と、ひんやりした木陰と、静かな遊歩道—このグリーン・オアシスで、日頃の疲れを存分に癒してください。



春の花々ほど豪華絢爛ではありませんが、キャンドルスタンドのようにすくくと立つマロニエの花、甘い香りのする西洋サンザシ、そしてユリノキなど、夏の花もなかなか味わい深いものです。また、夏は、ダウンズ地方の草原に、可憐な野の花が一斉に咲く時期でもあります。

花火の季節—秋



英国の秋は花火の季節。ウェストンバートも「自然の花火」の競演の場と化します。9月の声を聞くころには、栗のいがのとげが鋭さを増し、ペルシア・アイアンウッドの葉が黄色、オレンジ色を経て深い紫色へと変貌します。けれども、秋のショーのスターは、何と言っても日本のもみじでしょう。

ウェストンバートのあちこちが炎の赤やオレンジ色や黄色に染まり、中でもオールド・アーバリータムのエイサー・グレイド **Acer Glade** とシルク・ウッドのジャパニーズ・メイプル・カルティヴァー・コレクション **Japanese Maple Cultivar Collection** (日本原産もみじの栽培コレクション) のもみじは、目を奪われる美しさです。

けれども、秋は見て楽しむだけのものではなく、カサカサという枯葉の音、移り変わる季節の香りなど、全ての感覚が呼び起こされる季節でもあります。桂の葉はパラパラと崩れるときに、綿あめのような香りを周りに撒き散らすことが知られています。ぜひ探し当てて、ご自分で試してみてください。

ウィンター・ワンダーランド

忘れてはならないのが、ウェストンバートの冬。冷え込んだ朝、針葉樹の深緑や荒い木肌が霜にうっすらと覆われている光景は、神秘的そのもの。針葉樹のきりっとした線は、冬の間も変わることがありません。特にメイン・ドライブ Main Drive とスペシメン・アベニュー Specimen Avenue からの眺めは、一見の価値があります。



冬に花をつける灌木も数種あり、サルココッカ（別名クリスマス・ボックス）やマンサクなどが色を添えています。シルク・ウッドでは、マンサクの黄色の花穂（かすい）がかわいらしく枝からぶら下がっている様子に、何となく微笑んでしまうでしょう。

ホルフォード家の遺産、ウェストンバート

ウェストンバート森林公園の特徴は、樹木の数や種類だけではなく、そのスタイルにもありますが、それはこの森林公園を創設したロバート・ステイナー・ホルフォード（1808～1892年）の功績によるものです。

ホルフォードは、1838年に100万ポンドと6つの地所を遺産相続しました。地下室の一つからは、ウィールバロウ（手押し車）いっぱいのお金が見つかったといううわさもあります。その翌年の1839年にウェストンバートを相続したホルフォードは、莫大な資産をもとに、まだ31歳という若さでウェストンバートを樹木園にしようと志したのです。



当時の社交界では、田舎に広大な地所を所有することが流行の先端と考えられており、富裕なホルフォードも、英国で指折りの大地主となることを切望していました。こうして、現在は私立学校となっているウェストンバート・ハウスを中心とする大庭園を造るための計画が実施されました。ホルフォードの大志は留まるところを知らず、ウェストンバート・ハウスの改築とフォーマルな庭園のほかに森林公園を造るため、ウェストンバート村を移動させたのです。当時の公園入り口は、ジャクソン・アベニュー **Jackson Avenue** に残っています。大英帝国の栄華が最盛期で、デイヴィッド・ダグラスなどの植物学者が、世界中の植民地で採集した珍しい植物を持ち帰りました。ホルフォード自身はそのような探検隊には加わらなかったものの、おそらく探検資金を提供したものと思われます。当時持ち帰られた植物の子孫は、今でもウェストンバート森林公園で繁殖しています。

しかし、現代の植物採集とは違い、ホルフォードは科学や品種保存に興味があったわけではありません。他の地主がそうであったように、ホルフォードも自分の趣味の良さと富を鼓舞できるような庭園を造ることが目的だったのです。よって、ウェストンバートは、ピクチャレスク派と呼ばれる造園様式に忠実な、見た目に美しい庭園に仕上がっています。絵画の概念を造園に応用することで景観がさらに「改良」されるという信条のもと、多様性、複雑性、関連性という絵画の三原則が庭園の設計に使われました。

まず多様性は、全体のアウトライン、隣り合っている樹木の形と色合い、植物が密生する場所とオープンな空間の対照などを利用して作り出すことができます。次に複雑性は、特定の場所を樹木や灌木で隠すことによって生まれ、見る者に想像する喜びを与えてくれます。最後に関連性というのは、それぞれ特徴を持った異なる景色が、徐々に「調和した全体像」を作り上げることを意味します。1855年までには、メイン・ドライブ、スペシメン・アベニューを始めとして、ホルフォード・ライド、モーリー・ライド、ジャクソン・アベニューの3本の遊歩道など、オールド・アーバータムがほぼ出来上がりました。どの箇所をとってみても、ピクチャレスク様式の基本原則を念頭において設計されていることが明白です。

1880年代にウェストンバート開発の総指揮をとったのが、ロバート・ホルフォードの子息でサーの称号を持つジョージ・ホルフォード卿です。サー・ジョージは、何世紀もの間手つかずだった半自然の樹林を伐採して、谷の反対側のシルク・ウッドにまで森林公園を拡張しました。そして、ウィルズリー・ドライブ、ブロード・ドライブ、ウェイスト・ドライブといった、観賞用の樹木が立ち並ぶ幅広い遊歩道を作ったのです。また、ウェストンバートの代名詞として有名な多くの石楠花やもみじを植えたのも、サー・ジョージです。

サー・ジョージは 1926 年に亡くなりましたが、子どもがいなかったために、甥である第 4 代モーリー伯爵が遺産を相続しました。モーリー伯爵は翌年 1927 年に邸宅を売却し、建物は後に女学校となりました。ウェストンバートの地所は分割されたのです。モーリー伯爵は 1951 年に亡くなり、弟が後継者となりました。しかし、ウェストンバート森林公園は第二次世界大戦の間にすっかり荒れ果て、1956 年、600 エーカー (240 ㊦) におよぶ全地所が森林保護委員会に引き渡されました。ウェストンバートが新しく生まれ変わる機会が、こうして訪れたのです。



森林保護委員会が果たした役割

英国政府の一機関として木材生産の管理と運営が主な役割であった森林保護委員会にとって、大蔵省からウェストンバート森林公園の管理を委任されるというのは、思いもよらない出来事だったでしょう。600 エーカーという広大な敷地に密生している樹木の多くは外国産で、商業価値はほとんどありませんでした。委員会はウェストンバート森林公園の将来について何度も話し合いを持ったものの結果は出ず、委員長に判断を委ねられることになりました。幸運なことに、委員長はウェストンバートを維持することを支持したのです。

森林保護委員会が最初にとりかかったのは、ウェストンバートを一般市民が訪れるのにふさわしい場所に整備することでした。これには時間を要し、一般公開にこぎつけたのは 1961 年でした。このとき、樹木のコレクションを記録し、カタログにする作業も同時進行していました。この記録は、現在使われている GIS 地理情報管理データベースの基盤となっており、今後コレクションを管理し拡張していく上でなくてはならない情報を提供しています。

また、新しい遊歩道の作成や植樹にも力を入れ、1961 年にサビル・グレイド Savill Glade が作られました。その後、ウェストンバート上空をよく飛行していたかの有名な超音速ジェット機にちなんで命名されたコンコルド・グレイド Concord Glade が 1969 年にできました。1974 年に完成したパーマー・ライド Palmer Ride は、1975 年にザ・リンク The Link を通じてブロード・ドライブとつながっています。中でも特記に値するのは、1982 年、シルク・ウッドにジャパニーズ・メイプル・カルティヴァー・コレクションを創設したことでしょう。

近年における私たちの業務は、世界植物保全戦略 **Global Strategy for Plant Conservation** との協力体制や気候変動への対応など、世界が面している数々の問題と深く関わっています。そして、将来を見据えた植物の管理や維持に、常に心を砕いています。古代から続いてきた半自然森林帯であるシルク・ウッドを昔の状態に戻そうと努力している一方で、新しい品種の収集にも力を入れており、「もみじループ」もその一つです。私たちの目標は、**15年以内**にもみじのコレクションで世界一となることです。

人と樹木をつなげるコミュニティー

ウェストンバート森林公園の人気はうなぎのぼりですが、社会や環境に対し樹木がどのような意味を持つのか伝道する活動も、年々活発になってきています。**1982年**に設置された教育部門の重要性が年々増大し、今やウェストンバートになくてはならない役割を担っています。さらに、毎年**8月**の「**Festival of the Tree**」やイルミネーションで飾られた夜の森を散策する**12月**の「**Enchanted Christmas**」など、様々な年中行事がお客様を暖かくお迎えします。

1985年、森林保護委員会の支援を目的とする慈善団体「**Friends of Westonbirt Arboretum Charity**」が発足しました。これは会員制で、財政面およびボランティア派遣という形で支援活動を展開しています。**2万1000人**余りのメンバー（**Friends**）は、**2000年**にチャールズ皇太子がその開館式にご出席くださったグレート・オーク・ホールを活動拠点としています。また、**300人以上**のボランティアが、同ホールでのインフォメーション・サービス、公園ガイド、植物繁殖の手伝い、樹木の維持管理など、幅広い活動を行っています。

2006年には、森林保護委員会設立**50周年**、および前述の慈善団体発足**21周年**を祝いました。

50年前、個人所有の庭園だったウェストンバートは、今や、年間**36万人**が訪れる世界有数の樹木コレクションを誇る森林公園へと成長を遂げました。これからも、皆様のおいでを心よりお待ちしております。